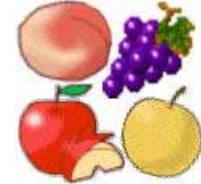


平成22年度 果樹情報 第13号

(平成22年9月24日)



福島県農林水産部研究技術室

- 1 気象概況 (9月1～3半旬：果樹研究所)
平均気温は、平年と比較すると1半旬が28.6 で5.1 高く、2半旬が24.4 で2.3 高く、3半旬が22.8 で1.8 高く経過しました。この期間の降水量は82.8mmで平年の95%でした。
- 2 土壌の水分状態 (果樹研究所)
9月15日現在の土壌水分 (草生栽培リンゴほ場：無かん水) は、深さ20cmでpF2.2、深さ40cmでpF2.5、深さ60cmでpF2.5であり、深さ40cm及び60cmはやや乾燥傾向となっています。
- 3 生育概況 (9月15日現在：果樹研究所)

表1 主要品種の果実肥大

果実肥大	ナシ 豊水		リンゴ ふじ	
	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	75.3	87.6	72.4	82.1
平年比(%)	96	98	96	100

※暦日比較 果樹研究所9月15日調査

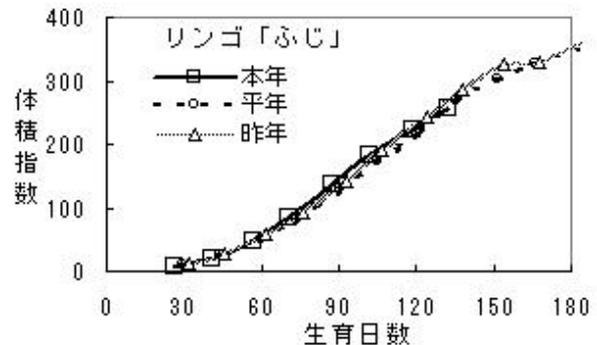
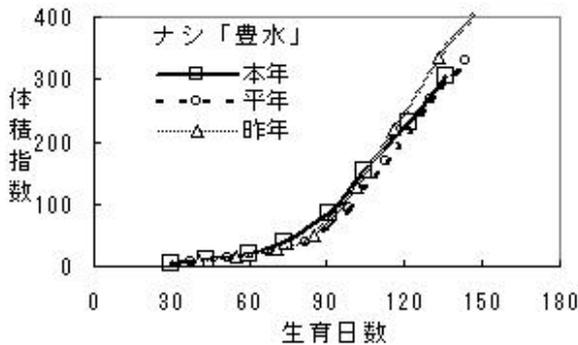


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所9月15日現在)

(1) モモ

ア 収穫期と果実品質

「川中島白桃」の収穫始めは8月27日で平年より2日遅く、収穫盛りは9月2日で平年より5日遅れました。果実の大きさは343gと平年より大きく、糖度は14.0と平年より高い状況でした。

「ゆうぞら」の収穫始めは9月1日、収穫盛りは9月5日で平年並みに経過しました。果実の大きさは348gと平年より大きく、糖度は14.4と平年より高い状況でした。

表2 モモの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
川中島白桃	8/27	8/25	8/17	9/ 2	8/28	8/20	9/ 8	8/31	8/25	343	306	367	14.0	12.7	12.8
ゆうぞら	9/ 1	9/ 1	8/25	9/ 5	9/ 5	8/31	9/10	9/ 9	9/ 7	348	292	397	14.4	12.6	12.3

(2) ナシ

ア 収穫期と果実品質

「幸水」の収穫始めは8月30日、収穫盛りは9月5日で平年より3日遅れました。果実の大きさは平年よりやや大きく、糖度はやや高い状況でした。

なお、「豊水」の収穫始めは9月21日頃で平年より6日程度遅い見込みです。

表3 ナシの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/30	8/27	8/24	9/ 5	9/ 2	8/28	9/ 9	9/ 8	8/31	383	360	432	12.9	12.5	12.2
豊水	未	9/15	9/10	未	9/21	9/14	未	9/28	9/17	未	419	440	未	12.4	13.0

未は未確定

イ 果実肥大

「豊水」の果実肥大は、暦日で比較すると平年比96～98%とやや小さい状況ですが、果実の生育日数による比較では平年並みとなっています。

(3) リンゴ

ア 収穫期と果実品質

「つがる」の収穫始めは8月31日で平年より2日遅く、収穫盛りは9月4日で平年並みに推移しました。果実の大きさは平年より小さく、糖度はやや高い状況でした。

表4 リンゴの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つがる	8/31	8/29	8/26	9/ 4	9/ 4	8/27	9/13	9/ 9	8/31	256	288	239	13.0	12.6	13.6

イ 果実肥大

「ふじ」の果実肥大は、暦日で比較すると平年比96～100%と平年並み～やや小さい状況ですが、果実の生育日数による比較では平年並みとなっています。

4 栽培上の留意点

(1) モモ

ア 秋肥の施用

9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復に努めましょう。秋肥は速効性肥料を中心に、窒素成分で7kg/10a程度（あかつきの場合）施用します。

イ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）に秋季せん定を実施しましょう。秋季せん定は、樹冠内部の徒長枝を中心にせん除しますが、樹冠上部の発育枝は、樹勢を維持するためにできるだけ残すようにしましょう。なお、樹勢が中庸な樹や弱い樹では、葉数確保を優先し、秋季せん定は実施しないか、実施しても最小限とします。

(2) ナシ

ア 収穫

「豊水」の収穫始めは、平年より6日程度遅れる見込みです。今後の気象の推移に注意し、適期収穫に心がけましょう。

イ 秋肥の施用

「幸水」の収穫終了後、9月中旬頃に秋肥を施用しましょう。秋肥は、速効性肥料により窒素成分で5～10kg/10a施用します。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるので、できる限り早く秋肥を施用しましょう。

(3) リンゴ

ア 中生種の収穫前管理と収穫

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に応じて遅れないように実施しましょう。収穫は、地色や硬度等の推移に十分注意し適期収穫に努めましょう。

イ 「ふじ」の着色管理

「ふじ」の摘葉は10月中旬頃から実施しますが、栽培面積が多い場合は9月下旬頃から始めましょう。この場合は、1回目は軽く実施し(3~4枚程度)、10月中~下旬に再度強めに実施します。

(4) ブドウ

ア 適期収穫

収穫が遅れると肉質が柔らかくなるなど果実品質が低下する原因となるため、適期収穫に努めましょう。

イ 秋肥

収穫後、9~10月頃は秋根が活発に伸びる時期となります。養分吸収の盛んなこの時期に秋肥を施用し、来年の貯蔵養分の蓄積を図りましょう。なお、秋肥は、新梢の生育に影響するので、新梢の停止状況、葉色、新梢の登熟程度などをよく観察して施肥の量を判断しましょう。

秋肥は、速効性肥料を用いて、窒素成分で2~3kg/10a(巨峰、ピオーネ、高尾の場合)を目安に施用します。樹勢が強く、葉色が濃く、遅伸びしているような新梢が多い樹には、秋肥の施用は控えましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモせん孔細菌病

9月8日付で福島県病害虫防除所より病害虫発生予察注意報が発表されました。越冬伝染源密度の低下を図るために、収穫終了後、9月上旬~10月上旬にかけて秋季防除を2回実施しましょう。なお、新梢葉や果実での発生が多かったほ場では、収穫終了後~落葉前までに3回防除して感染を防止しましょう。

イ ナシ黒星病

本病の発生が多かった園では、園内の越冬菌密度の低下を図るため、秋季防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア コスカシバ

本種による被害が多いモモ園では、収穫後(9月中旬~下旬)の防除を徹底しましょう。

イ クワコナカイガラムシ等

発生の多い園では、9月下旬頃までにバンド誘殺の設置を完了しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。